

— 研究報告 —

高齢者の結晶性能力の受け止め方と 看護学生のエイジズム及び高齢者イメージとの関連

畑野相子, 簗原文子

滋賀医科大学医学部看護学科老年看護学講座

要旨

本研究の目的は、高齢者の結晶性能力の受け止め方と看護学生のエイジズム及び高齢者イメージとの関連を明らかにすることである。

授業の一環として高齢者の結晶性能力のインタビューを課し、その前後にエイジズム及び高齢者イメージ調査を行った。また、課題提出後に結晶性能力の受け止め方について調査した。その結果、インタビュー後の方がエイジズムは低下し高齢者イメージは肯定的に変化した。結晶性能力の受け止め方との関連においては、予想よりはるかに優れていると受け止めた学生の方がエイジズムと高齢者イメージの変化は大きく、結晶性能力の受け止め方がエイジズム及び高齢者イメージと関連することが示唆された。

キーワード: エイジズム、高齢者イメージ、結晶性能力、看護学生

はじめに

1991年の国連総会で、尊厳・自己実現・参加・自立・ケアの5項目が「高齢者のための国連原則」として採択された。これは高齢者看護の基本的姿勢である。高齢者看護の質には看護者が持つ高齢者イメージやエイジズム（高齢者差別意識）が関連していると言われていいる。肯定的な高齢者観の形成に高齢者から世話を受けた経験¹⁾や祖父母との交流が影響する²⁾。しかし、少子化や核家族化が進行した社会環境で育った看護学生（以下学生とする）は、高齢者との交流がしにくく、年代のかけ離れた高齢者のイメージ化が難しい。臨地実習は学生が高齢者と交流できる場であることから、イメージやエイジズムの変化と実習のあり方に関する研究は多く、ライフインタビューの導入の効果³⁾やナラティブ面接の意義⁴⁾、老人クラブ実習によるプラスイメージの形成⁵⁾等が報告されている。しかし、いずれも実習や演習での聞き取り内容と高齢者イメージやエイジズムの関連を分析したものであり、聞き取った内容を学生がどのように受け止めたかについての分析は見当たらなかった。

そこで本研究では、学生が高齢者へのインタビューを行い、高齢者の結晶性能力の受け止め方とエイジズムおよび高齢者イメージとの関連を明らかにすることを目的とした。

用語の操作的定義

結晶性能力は過去の経験や学習によって蓄積・形成された知識や技能に基づく能力であると定義されている（広辞苑 第6版）。本研究における結晶性能力は、漢字想起・人生の喜び・健康上の注意・喪失体験への

対応とした。これらの内容は、生理的変化に対する対処能力であり、よりよい生活の構築に向けて培われる能力であることから設定した。

研究方法

1. 対象は4年制大学看護学科2回生60人とした。
2. 調査期間は2012年12月～2013年2月とした。
3. 研究デザイン

高齢者の結晶性能力の受け止め方とエイジズム及び高齢者イメージは調査研究とした。学生が行う結晶性能力のインタビュー内容と方法に研究者が介入した。

4. 調査内容

- (1) インタビュー内容は①魚編の漢字、②人生における喜びや楽しみ、③健康に気を付けていること、④喪失体験と対処方法とし、インタビュー時の表情を観察項目とした。
- (2) 結晶性能力の受け止め方は、「予想よりはるかに優れている」「予想通り」「予想よりやや低下している」「予想よりはるかに低下している」の4段階に分けて質問した。

5. データ収集の方法

- (1) インタビューガイドに基づいて聞き取りをするよう提示した。
- (2) エイジズムは、原田らの「日本語版 Fraboni エイジズム尺度短縮版」14項目（以下FSAとする）を用いた⁶⁾。各項目の「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」の選択肢に5～1点、反転項目は1～5点を配点した。インタビュー前と課題提出時に調

査し、数値が大きいほどエイジズムは高い。

(3) 高齢者イメージは、保坂らの15項目を用いた⁷⁾。この調査はSD法が一般的であるが、変化を数値化するため、対極の間隔を10cmにしてチェックしてもらった。Visual Analog Scale法(以下VASとする)を併用した。数値が大きいほど肯定的イメージを示し、インタビュー前と課題提出時に調査した。

(4) 結晶性能力の受け止め方は、課題終了時に質問紙を用いて調査した。

6. 分析方法

エイジズム及び高齢者イメージは、インタビュー前後の平均値を比較した。

結晶性能力の受け止め方は、予想よりはるかに優れていると回答した学生を「予想以上群」、それ以外の回答をした学生を「予想以下群」の2群に分け、各群におけるエイジズム及び高齢者イメージとの関連をみた。検定にはWilcoxonの符号付き順位検定を用い、有意水準は5%とした。解析ソフトはspss20.0j for windowsを用いた。

倫理的配慮

研究対象者には、文書にて、研究の目的、自由意思による研究への参加、不参加による不利益からの保護、成績とは一切関係がないこと、プライバシー保護厳守について保証した。前後の結果を対応させるための識別には、学生が選択した記名方法を用いた。データは記号化し、個人が特定できないようにした。実施にあたっては、研究者が所属する機関の倫理委員会の承認を得た(承認番号 24-101)。

結果

1. 配布数は60人で回収数は58人(回収率96.7%)で、そのうち、前後の突合ができなかった3人を除いた55人を分析対象とした(有効回答率94.8%)。

2. 結晶性能力の受け止め方

漢字想起能力(以下漢字能力とする)の受け止め方は、予想よりはるかに優れているが27.3%だった。生きる喜びや楽しみ(以下生きる喜びとする)の受け止め方は、予想以上に多いが40.0%だった。健康に気を付けていること(以下健康法とする)の受け止め方は、予想以上にしているが38.2%だった。

表1 結晶性能力の受け止め方

	予想以上に維持していた		予想通り		予想よりやや低下していた		予想よりはるかに低下		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
漢字能力	15	27.3%	25	45.5%	10	18.2%	2	3.5%	n=52
生きる喜び	22	40.0%	26	47.3%	4	7.3%	2	3.6%	n=54
健康への関心	21	38.2%	28	52.7%	5	9.1%	1	1.8%	n=55

インタビュー時の表情(以下表情とする)の受け止

め方は、生き生きしているが70.9%だった。喪失体験とその対処(以下喪失体験とする)の受け止め方は、予想よりはるかに多いが16.4%だった。

表2 表情に対する感想

	n=55	
	人数	割合(%)
生き生きしている	39	70.9
やや生き生きしている	13	23.6
変化なかった	1	1.8
暗かった	2	3.6

表3 喪失体験の受け止め方

	予想以上に ある		予想通り		予想よりやや 少ない		予想よりはる かに少ない		計
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
喪失体験	9	16.4%	22	40.0%	13	23.6%	7	12.7%	51

3. イメージの変化

イメージの変化は表4に示した。インタビュー前と比較すると後は15項目中プライド以外の14項目が肯定的になり、そのうち7項目が有意に肯定的に変化した。

表4 イメージの変化

イメージ	聞き取り前		聞き取り後		変化	有意 確率
	平均値	差	平均値	差		
尊敬の念	85.49	14.650	86.07	17.389	-1.582	
役に立つ	77.55	17.512	78.73	19.135	-1.182	
好き	75.15	16.341	81.24	17.374	-6.091	**
明るさ	68.31	16.428	73.91	20.463	-5.600	*
積極性	65.36	20.171	67.87	18.602	-2.509	
颯爽	53.71	14.811	59.07	21.466	-5.364	*
強さ	65.35	21.450	70.20	22.096	-4.855	*
温かさ	81.73	16.447	82.71	17.427	-0.982	
優しさ	80.17	15.390	83.76	17.846	-3.370	
上品さ	70.31	16.426	72.76	18.126	-2.455	
思いやり	75.44	17.299	81.58	17.580	-6.145	
プライド	69.24	18.705	67.45	18.626	2.296	
きれいさ	64.56	16.112	69.53	18.112	-4.964	*
素直さ	55.96	19.682	62.51	19.249	-6.545	*
考えの新鮮さ	44.22	16.641	53.35	17.775	-9.127	***

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

4. エイジズムの変化

インタビュー前後のエイジズムの変化は表5に示した。インタビュー前と比較すると後は総合得点が有意に低下した。内容別では、N011は上昇、N014は同じであったが、他の12項目はすべて低下し、そのうち5項目は有意に低下した。

5. 結晶性能力の受け止め方とエイジズムの関連

結晶性能力の受け止め方とエイジズムの関連は表6と表7に示した。すべての結晶性能力において予想以上に維持していると受け止めた群ではエイジズムは有意に低下した。喪失体験は予想以上にないと受け止めた群ではエイジズムは有意に低下した。生きる喜びと表情を予想より維持されていると受け止めた群は、エイジズム8項目が有意に低下した。

表5 エイジズムの変化

項目	聞き取り前		聞き取り後		変化	有意確率
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
1. 多くの高齢者は、けちでお金や物を貯めている	2.05	.803	1.93	.879	.127	
2. 多くの高齢者は古くから友人とかたまって新しい友人を作ることに興味が	2.18	.819	1.84	.834	.345	*
3. 多くの高齢者は、過去に生きている	2.28	.920	2.08	1.025	.208	
4. 高齢者に会うと、時々目を合わさないようにしている	1.69	.717	1.49	.791	.200	*
5. 高齢者が私に話しかけても、私は話したくない	1.53	.716	1.40	.735	.127	
6. 高齢者は、若い人の集まりに呼ばれた時は感激すべきだ	1.95	.870	1.71	.854	.236	*
7. もし招待されても、自分は老人クラブの行事に行きたくない	2.02	.871	1.67	.862	.345	**
8. 個人的には、高齢者と長い時間を過ごしたくない	1.78	.762	1.60	.807	.182	
9. 高齢者には地域のスポーツ施設を使ってほしくない	1.36	.677	1.29	.533	.073	
10. ほとんどの高齢者には赤ん坊の面倒を信頼して任すことができない	1.84	.788	1.60	.784	.236	*
11. 高齢者は誰にも面倒をかけない場所に住むのが一番だ	1.36	.649	1.38	.652	-.018	
12. 高齢者との付き合いは結構楽しい	2.29	1.641	1.91	.800	.382	
13. できれば高齢者と一緒に住みたくない	1.96	.816	1.82	.983	.145	
14. ほとんどの高齢者は、同じ話を何度もするのでイライラさせられる	1.95	.848	1.95	.911	0.000	
総合得点	26.20	7.189	23.62	8.478	2.582	**

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

表6 結晶性能力の受け止め方とエイジズムの関連

	予想以上群			予想以下群			人数
	前	後	有意確率	前	後	有意確率	
漢字能力	25.34	22.74	0.018	26.76	24.54	0.017	n=52
生きる喜び	26.45	20.41	0.000	26.84	26.06	n.s.	n=54
表情	25.23	21.38	0.000	28.56	29.06	n.s.	n=55
喪失体験	26.56	23.67	n.s.	26.29	23.81	0.010	n=51
健康への関心	25.86	21.76	0.003	26.41	24.76	n.s.	n=55

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

6. 結晶性能力の受け止め方と高齢者イメージの関連

結晶性能力とイメージの関連は表8に示した。漢字能力と生きる喜びと表情を予想以上と受け止めた群は、受け止めなかった群より肯定的に変化したイメージ数が多かった。しかし、健康法については、予想以上にしていると受け止めなかった群の方が肯定的に変化したイメージ数が多かった。喪失体験の受け止め方とイメージの関連はみられなかった。

表7-1 予想以上群におけるエイジズムの変化

エイジズム	漢字能力		楽しみ		表情		喪失体験		健康法	
	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率
1			2.05	*						
2			1.68	*	2.10	**			2.29	***
3			2.14	**	1.67	**			1.57	***
4			1.62	**	2.18	**			2.37	*
5			1.68	**	1.74	**			1.79	*
6			1.23	**	1.62	**			1.81	**
7			1.50	*	1.33	**			1.38	**
8			1.18	*	1.54	**				
9			1.18	*	1.23	**				
10	2.09	*	2.05	*	2.00	*				
11	1.71	*	1.64	*	1.74	*				
12	2.03	**	1.82	**	1.97	**				
13	1.60	**	1.50	**	1.56	**				
14										
総得点	25.34	*	25.45	***	25.23	***			25.86	**
	22.74	*	20.41	***	21.38	***			21.76	**

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

注1) マトリックス表には有意差が見られなかった関係の数値は表示していない。

表7-2 予想以下群におけるエイジズムの変化

エイジズム		漢字能力		楽しみ		表情		喪失体験		健康法	
		平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率
1	前後										
2	前後			2.22	**					2.21	*
3	前後			1.78	**					1.86	*
4	前後										
5	前後										
6	前後									1.95	*
7	前後			2.14	*	2.16	*			1.69	*
8	前後			1.86	*	1.81	*			2.07	*
9	前後					1.38	**			1.74	*
10	前後					1.76	**				
11	前後										
12	前後										
13	前後										
14	前後										
総得点	前後	28.11		26.76	*	26.84		26.29		23.81	*
		25.61		24.54		26.06					

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

注1) マトリックス表には有意差が見られなかった関係の数値は表示していない。

表8-1 予想以上群におけるイメージの変化

イメージ		漢字能力		楽しみ		表情		喪失体験		健康法	
		平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率
3	前後	74.68		77.59		77.69					
	前後	81.94	**	89.41	***	83.97	**				
4	前後	65.60	**	75.41	*	71.33	***			72.00	*
	前後	73.40	**	84.68		80.15				81.95	*
7	前後					69.38	**				
	前後					76.44	**				
9	前後			80.86	*	80.03	**				
	前後			88.76	*	84.92	**				
10	前後										
11	前後	76.80	*	75.68	*	74.10	**				
	前後	82.46	*	85.86	*	83.13	**				
13	前後			69.32	*						
	前後			76.36	*						
14	前後			61.73	*	56.64	**				
	前後			71.45	*	64.64	**				
15	前後	43.60	***	49.95	**	46.74	***				
	前後	55.71	***	58.05	**	55.97	***				

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

注1) マトリックス表には有意差が見られなかった関係の数値は表示していない。

表8-2 予想以下群におけるイメージの変化

イメージ		漢字能力		楽しみ		表情		喪失体験		健康法	
		平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率	平均値	有意確率
3	前後			74.35	*					74.88	*
	前後			80.11	*					81.02	*
4	前後									68.50	*
	前後									75.33	*
7	前後										
9	前後										
10	前後					75.44	*				
	前後					69.28	*				
11	前後									72.40	*
	前後									79.48	*
13	前後			64.76	*					62.86	*
	前後			71.19	*					69.16	*
14	前後									54.86	*
	前後									62.88	*
15	前後			45.32	**	40.09	*			43.93	**
	前後			52.68	**	50.22	*			52.52	**

*p<0.05 **p<0.005 ***p<0.001

注1) 有意差が見られなかった関係の数値は表示していない。

考察

1. 結晶性能力の受け止め方とエイジズムの関連

対象者のインタビュー前のエイジズム総合得点は26.20であった。この点数を先行研究と比較するとほぼ同じであり、本研究の対象は一般的な集団といえる^{8~9)}。

インタビュー後、エイジズムは14項目中12項目と総合得点が低下した。また予想以下群に比べて予想以上群においてエイジズムとの関連を強く認めた。このことからエイジズムは高齢者の結晶性能力にふれることで変化しやすく、その受け止め方と関連することが示唆された。予想以上に維持されていたと受け止めることは、高齢者の結晶性能力に対する自分なりの評価基準が拡大したことを意味する。この実感を持った結晶性能力の理解が重要であると考えられる。

内容別にみると、インタビュー前に2点以上だった差別意識の内、2・7はインタビュー後に有意に低下した。予想以上群では、9つの内容が有意に変化している。これらの内容は、嫌悪や回避や誹謗の意識を示すものと考えられており¹⁰⁾、高齢者の結晶性能力に触れることで変化するといえる。久木原はエイジズムには高齢者との交流が関連すると報告している¹¹⁾。高齢者への偏見を世代間比較した研究では、若い世代の偏見が高齢者より有意に高かつ

た¹²⁾。この調査研究がされた時代の高齢化率は国民衛生基礎調査(2012年)によると14.5%であり、3世代同居も多く、現在より交流しやすい環境と思われるが、偏見が存在している。少子化や核家族化が進んだ現代社会において、若者の高齢者との自然発生的な交流は難しく、結果としてエイジズムを有してしまうと考えられる。エイジズムを排除するには高齢者の結晶性能力を実感する体験の重要性が示唆された。

2. 結晶性能力の受け止め方とイメージの関連

15項目中14項目が肯定的に変化し、「好き」「明るさ」「颯爽」「強さ」「きれいさ」「素直さ」「考えの新鮮さ」は有意に変化した。結晶性能力の受け止め方との関連では、予想以下群に比べ予想以上群に強い関連がみられた。特に人生の喜びと表情の受け止め方において7項目が変化した。「好き」は感情で「強さ」は内面の力で、その他の項目は様々な情報を統合した評価的視点といえる。先行研究では、身体機能低下がマイナスイメージにつながる¹³⁾、高齢者とのかかわり体験が影響する¹⁴⁾、同居高齢者の健康状態が影響する¹⁵⁾などが報告されている。身体的変化は外観できるが、内面は交流しないと理解できない。「感動」体験が意識変化に影響すると言われており¹⁶⁾、高齢者と触れあい、感動をもって結晶性能力を受け止めることの重要性が示唆された。

エイジズムと高齢者イメージはどちらも主観的感覚であり相互補完的であるが、どちらが基になるかと言えば高齢者イメージであると考えられる。中でも感情を基にしたイメージはエイジズムに与える影響は大きく、嫌いと思えば交流したいと思わない。その意味から、本研究で「好き」が肯定的に変化したことの意義は大きい。

3. 結晶性能力を聞き取ることの意義

対象理解をするための教授方法と教材が重要である。林は「人間に対する畏敬だけが、教育を可能にする」と述べている¹⁷⁾。教育は教師と学生の相互作用であり、双方が人間への畏敬を有することが重要である。本研究で結晶性能力とした4項目は生きてきた中で培ってきた対処能力であり、それを把握することは、人間への畏敬を持つ手がかりになる。結晶性能力が把握できる項目の妥当性の検討は今後の課題である。

結論

高齢者の結晶性能力の受け止め方と看護学生のエイジズムおよび高齢者イメージの関連において以下の点が明らかになった。第1にインタビューを通して高齢者の結晶性能力に触れることによってエイジズムは低下しイメージは肯定的に変化する。第2に結晶性能力の受け止め方とエイジズム及び高齢者イメージは関連する。第3に長い人生の中で培ってきた高齢者の結晶性能力を学生が感動を伴って理解することが重要である。

謝辞

学生のインタビューを快く受け入れてくださった皆様、調査研究にご協力いただいた本学学生に深謝します。

文献

- 1) 高野真由美, 看護学生の背景による老人イメージ・知識・エイジズムの相違第38回看護教育 147-149, 2007
- 2) 大谷英子, 松木光子: 老人イメージと形成要因に関する調査研究, 日本看護研究学会学会誌, Vol18, No4, 1995
- 3) 畑野相子, 簗原文子: 齢者イメージとエイジズムの変化の分析, 滋賀医科大学看護学ジャーナル 11(1), 23-27, 2012
- 4) 谷本真理子, 島田美紀代, 田所良之, 高橋良幸, 正木治恵: 老人施設ケア実習における高齢者理解のための方法としてのナラティブ面接の意義, 千葉大学看護学部紀要第31号, 27-31, 2008
- 5) 大石和子, 時田寛子: 高齢者のプラスイメージを形成する老年看護学実習の検討, 第35回看護教育, 94-96, 2004
- 6) 原田譲: エイジズム研究の動向と課題, 老年社会科学, Vol133-1, 74-81, 2011
- 7) 保坂久美子, 袖井孝子: 大学生の老人観, 老年社会科学8, 103-116, 1986
- 8) 畑野相子, 北村隆子, 安田千寿: 老年看護学教育プログラムが高齢者イメージ形成過程に影響する要因, 人間看護学研究, Vol18, 35-45, 2010
- 9) 坂久美子, 袖井孝子: 大学生の老人イメージ, 社会老年学(27), 22~23, 1988
- 10) 石倉花奈子, 古城幸子: 看護学生の高齢者イメージとエイジズムに関する横断的調査, インターナショナルNursing Care Health, Vol110-3, 2011
- 11) 久木原博子, 内山久美, 二重作清子他: 青年期にある人のエイジズムに関連する要因, 看護保健科学研究誌, Vol113, No1, 57-64, 2013
- 12) 堀薫夫, 大谷英子: 高齢者への偏見の世代間比較に関する調査研究, 大阪教育大学紀要, 第IV部門, Vol144, No1, 1-12, 1995
- 13) 近藤ふさえ, 丸山昭子: 看護学生の高齢者とのかかわり体験と高齢者イメージの関連, 日本医学看護学教育学会誌, Vol113, 18-25, 2004
- 14) 岩井恵子: 看護学生が持つ高齢者イメージの分析, 関西医療大学紀要, Vol. 4, 2010
- 15) 家里かおり, 渡邊裕子, 倉田トシ子他: 同居祖父母の健康状態が看護学生の高齢者イメージに及ぼす影響, 第35回老年看護, 82-84, 2004
- 16) 戸梶亜紀彦: 「感動」体験の効果について, 広島大学紀要, 27-37, 2004
- 17) 林竹二: 教えるということ, 国土社刊, 34, 1980